

# 復興支援に 役立てて

## 手を取り合い募金活動

### 能生事務所に善意託す

能登半島地震

#### 能生中生徒会

糸魚川市立能生中(吉田和則校長)の生徒会は25日、能登半島地震の復興支援にと集めた募金6万1804円を、同市能生事務所に届けた。同生徒会総務を代表して中村春希君(3年)、生活委員長の草間恵亮君(同)が同事務所を訪れ、善意の入った募金箱を高野一夫所長に手渡した。

「ちを届けたい」という意思が伝わるような募金を、たくさん生徒がしてくれた」と振り返り、草間君と共に感謝を口にした。

校内で16、17、19日 徒玄関や教務室で募金を呼びかけた。家族からお金を預かってきた生徒もいたという。スローガン考案の中心人物となった中村君は「『能登半島へ気持ち

野所長は「皆さんが手を取り合って集めてくれた大事なお金。能登では困っている人がたくさんいるので、ちゃんと届ける」と誓った。



左から草間君、中村君、高野所長

## 後輩へ感謝込め

### 卒業記念に角椅子製作

#### 市建設業協会が協力

糸魚川東中生  
3年

糸魚川市立糸魚川東中(青山範夫校長)の3年生46人は26日、卒業記念品として学校で

「後輩のために何か残したい」「在校生に喜ばれるものを」と3年生が1学期から考え、いろいろな意見が挙がった結果、古く

なつた理科室の椅子を新しいものにしてしようと決めた。製作に当たって、糸魚川市建設業協会から糸魚川産スギを加工した材料の提供を受け、協会会員が来校して作り方の指導やサポートなどに協力を得た。体育館で各班に分かれて製作。2人一組になって会員に教わりながら木材のパーツを順に組み立てた。くぎを



糸魚川市建設業協会会員に習って卒業記念品の角椅子作りに励んだ糸魚川東中3年生

使わず、木ダボを差し込んで接合。金づちで打ち込む音を響かせ、木の風合いや香りを感じながら作業に励んだ。学年委員長の原彪雅(ひゅうが)君は「優しく教えてもらって楽しくできた。在校生に(椅子を)作ったことを知ってもらい、感謝の気持ちを届けたい」と話した。

れるお顔も美しく、天皇陛下を拝するお姿に感動した国民も多かったのではなからうか▼本県からは、清楚(せいそ)な制服姿の神田日陽里さんが選ばれた。今年のお題は「和」であったが、お題の「和」を付和雷同につなげた若々しさに新しい形を見る思いだった。制服のリボンががすかに揺れ、緊張の姿もかわいらしいものだった▼入選者の女性は晴れ着姿の方が多く、きつこの日のために新調されたのだろう。思い出すのは昨年、上越市から初めて選ばれた相川澄子さんの黒のドレスである。和服の裾模様にも似た大輪のバラがあでやかに咲き、恭しく礼をされる相川さんに花を添えていた▼来年のお題は「夢」と発表され、テレビを見ていた多くの方が「夢・夢・夢」とつぶやかれたのではないだろうか。夢に向かつて新しいことに挑戦、早速、五・七・五・七・七と指を折ってみた。